

- 【主題名】 心の弱さを乗り越えるために D-(22)
- 【教材名】 「銀色のシャープペンシル」(「新しい道徳1」東京書籍)
- 【授業者】 井上 美智子 教諭
- 【ねらい】 人間の弱さと良心との間で悩む主人公の心を通じて、自らの弱さや醜さを克服する強さやよりよく生きようとする態度を育む。

## 模擬授業



## 【指導上の工夫】

自分自身との関わりで考えるための工夫

- ・教材読後から、「何が問題だったのか」について考えさせる。
- ・切り返しや補助発問をたくさん取り入れ、本音に迫れるようにする。

多面的・多角的に捉えるための工夫

- ・本校で作成している「道徳の授業の一宮スタイル(スタンダード)」の中のキーワードを活用する。
- ・中心発問では個人でじっくり考えさせた後、グループで意見交流し、さらに考えを深めさせる。(司会カード利用)

主題に迫るための工夫

- ・「ぼく」と「卓也」の違いについて考えさせ、「ぼく」が変わろうとしている気持ちに迫る。
- ・誰もが「弱さや醜さ」を持つ反面、「よりよく生きようとする思い」もあることに気付かせる。

## 研究協議

## 協議の視点：ねらいに迫る発問

- ・「よりよく生きようとする態度を育む」をどう捉えて、どう深めるか。ここにこだわればより核心に迫れるのではないか。
- ・「深呼吸しながら、ぼくが考えていたこと」について  
「吐いたもの・吸ったものは何か」は、ちょっと文学的になっていたのではないか。

自分の生き方を考えることができる発問であったが、一方で、吸った・吐いたの捉え方が生徒によって違いがでてくるのではないか。また、答えが限定的になってしまい、後で発言する生徒が発言しにくくなるのではないか。

- ・発言が苦手な生徒の場合、問い返しを連続するのではなく、他の生徒へ振っていくことも方法の一つであると思う。
- ・「なぜ、謝りに行くのか」について

もやもやをスッキリさせたいがために(自分のためだけに)謝りに行くのか、誰のために行くのか、ということ深く考えさせたい。

- ・「道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度」に結びつけるために、「ぼくはどうして乗り越えることができたのか」という聞き方がよいのではないか。そのことにより、良心の呵責や誠実でありたい等の考えにふれることができる。
- ・「弱さや醜さを乗り越えた後、どのような世界が広がっているのか」について考えさせると、今後に繋がる。

## 講師による指導・助言

高知大学 森 有希 准教授

生徒の実態に応じて

- ・挿絵提示の有無やテンポの速さ等については、生徒の実態に合わせていけば問題はない。
- ・補助的で段階的な発問はなくてもよい場合もある。教材を読んだ後、いきなり「考えてみたいことは？」という入り方もある。例：「なぜ、ばれてもいないのに、謝りに行こうと思ったのか?」、「『ずるいぞ』の声は誰の声?」は、自我関与を図ることができる場面。「それはどんな時?」「その時どんな気持ち?」等で深められる。

「深呼吸しながら、ぼくが考えていたこと」について

- ・「どうして、向きを変える決意(卓也の家に向かう決意)ができたのか?」を問えば、「自分のため」かどうかについて「考える道徳」につなげることができる。

## ●授業づくりについて

【発問】: 深めたり、広げたり、揺さぶったりする発問や問い返し。例) 考えてみたいことは何か? 登場人物と似たような出来事は? 自分ならどうする? 新たな気付きは? 考えが変わったのはなぜ? 本当にそれでよいのか? ○○(道徳的価値)はなぜ大切? どうすれば実現できる?

【活動】: ペア、グループの導入、思考ツールの活用。

(指導のねらいに即して、必要の有無を吟味。活動ありきではない。)

【板書】: 視点や立場の違い、また、価値に対する+と-の思いなど、必要なことに留める。

## 参加者の感想

- ・授業のクオリティの高さ(表情・テンポ・評価・声かけ)には驚きました。実際に子どもたちに授業をしている様子を参観したいと思いました。一宮中で取り組まれているスタンダードや、司会カードも効果的だと感じました。子どもの実態に応じたねらいに迫る発問の作り方も参考になりました。

・自校での研究に悩んでいたのに、司会カードやスタンダードに記述されている内容を読んで、なるほどと思えました。自校での研究に生かしていきたいと思えます。

・模擬授業から問い返しの仕方や、深め方などたくさんのヒントをもらいました。話合いの司会カード(子どもたち同士で深め合う)、ホワイトボードの活用などやってみようと思いました。

・たくさんの先生で協議することで、様々な着目点、発問の仕方が出るので一人で悩まずチームで考えることも大切だと思いました。とても勉強になりました。

・ねらいに迫るための発問は、たくさんあると思いますが、授業者がゴールイメージをもつことの大切さを学ばせてもらいました。生徒のつぶやきをひろうこと、板書の研究などたくさん自身で研究することがあると思いました。校内で、今日の研修を伝えたいと思います。